

スマイル



～子どもたちが安心して楽しく学校生活をおくるために～

文責 久保田静子

早いもので、9月もあと残り2日となりました。川原小の子どもたちは、毎日元気に過ごしています。コロナ感染防止のため、9月は異学年との交流や大きな声を出す活動、給食の配膳等ができませんでした。子どもたちは状況を理解し、落ち着いて生活することができていました。

さて、10月24日(日)には、運動会が開催されます。これから、6年生を中心に赤白応援の練習や様々な競技の練習が始まります。一人一人が、ベストを尽くすことができ、笑顔輝く一日になるよう、共に見守り励ましていきましょう。

今回のテーマ 「特別支援学級」って？

特別支援学級は、小学校・中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校に、教育上特別な支援を必要とする児童および生徒のために置くことができる学級です。障害や困難さをもつ子どもたちが自立や社会参加に向けて、その持てる力を高めるために適切な指導及び支援を受けることを目的としています。1クラス1～8名までの少人数で編成され、障害の種類やサポートを受ける種類により、7つのクラスに分けられています。(私が以前勤務していた佐世保市の学校では、特別支援学級が4種の4クラスあり、担任も1クラスに1名ずついました。)

できる限り細やかで個に応じた支援ができるための体制づくりが進められています。

さて、川原小学校にも『おひさま学級』があります。教科により、おひさま学級で学習する場合がありますが、一日のほとんどを交流学級で過ごしています。学習はもちろんのこと、朝の会、帰りの会、給食、掃除、休み時間等々、「共に学ぶ」「共に遊ぶ」「共に働く」ことができています。学校全体が「インクルーシブ教育」に向けて進んでいると感じています。私たち教職員も子どもたちと共に学んでいます。

まだまだ世の中には、「勉強ができないから。」「他の子と比べて変わっているから。」特別支援学級に在籍している、と誤解をされている方がいらっしゃると思います。でも、川原小学校ではそのような話を聞いたことがありません。これは、川原地区の特別支援教育に対する理解の深さが基盤にあるからではないかと思えます。

子どもたちは、将来、おそらく様々な特性を持つ人と出会い、共に学び、共に働くこととなります。お互いを理解し、困っている時には自然に助け合う大人に、そして社会になることを願っています。

◆お尋ねやご相談は、いつでもどうぞ。

★川原小学校 892-0017 担当;教頭・山口・久保田・橋本